

地 球 温 暖 化 対 策 実 施 状 況 書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	学校法人 南山学園 南山大学
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市昭和区山里町18
工場等の名称	南山大学
工場等の所在地	名古屋市昭和区山里町18
業 種	教育、学習支援業
業務部門における 建築物の主たる用途	学校
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	学校
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年7月31日 ～ 令和6年10月29日		
公表方法	○	揭示 閲覧	（場所） 南山学園 総務課
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-832-3112		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づき、南山学園におけるエネルギー使用の合理化に関する必要事項を定め、適切にエネルギー管理を行う。

(2) 地球温暖化対策の推進体制

南山学園におけるエネルギー使用の合理化ならびに適切な管理を目的とする

「南山学園エネルギー管理委員会」を設けている。委員会のメンバーは次のとおり。

1. 統括者（常務理事（総務担当））
2. 企画推進者（施設課長）
3. 管理員（学園内各学校の事務部の長、南山大学総務課長）
4. 経営本部長
5. 財務・施設部長

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		3,753	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		3,753	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
温室効果ガス総排出量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）				%		%		%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
原単位あたりの排出量	25.75	kg-CO ₂ / m ²	24.98	kg-CO ₂ / m ²	26.65	kg-CO ₂ / m ²	26.94	kg-CO ₂ / m ²
削減率（対 基準年度）			3.0	%	▲ 3.5	%	▲ 4.6	%
原単位あたりのみなし排出量						kg-CO ₂ / m ²		kg-CO ₂ / m ²
削減率（対 基準年度）						%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

令和5年度は基準年度に対し、4.6%の増加となった。
令和5年度は新型コロナウイルスの感染症分類・第5類引き下げにともない、一部オンラインであった授業も全面的に対面式講義となり、また労務環境上も在宅勤務がなくなり、純粋にキャンパス利用者が増加することにより比例してエネルギー消費も増加したことが、主な要因だと考えられる。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果
備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排
備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製
備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

[illegible]

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・前年度に引きつづき、空調設備の温度設定やタイマー設定による稼働時間の集中管理、誰も使用しない教室等の照明を消灯するなど、日々の省エネに構成員一人ひとりが取り組んだ。 ・教職員や学生をはじめとした構成員に対し、2050年カーボンニュートラルに向けた省エネルギー対策意識向上についての啓蒙活動を継続した（クールビズ・ウォームビズの推奨等）。 ・空調設備（GHP/EHP等）や照明（LED）の高効率化計画・更新についての中長期計画を策定した。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

・「環境保全の日」に合わせた本学園施設課スタッフをはじめとした構成員による「南山学園環境宣言」の再認識。 ・各事務室において、省エネを意識した残業時間削減への取り組みの継続。
